



Web
対応

海外拠点での導入で Web化のニーズに応える

今年で創業50周年を迎えるイダは、1956年にリコーの複写機第1号の部品を手がけて以来、一貫してOA機器の総合メーカーとして事業領域を拡大してきた。素材の製造から組立完成品までの一環生産でオフィス複合機などを提供するほか、PCで使われるプリント基板とケーブルを一体化した回路ケーブルなどの製造を手がけている。

中国、フィリピン、韓国、台湾、シンガポールなどアジア地域への積極的な展開を図り、チーム協業による素材からの一貫生産や最も経済的な加工方法、

製造拠点の選択、現地化による物流コスト低減と納品時間の短縮など、総合的な視点で品質の向上とコスト低減に取り組んでいるのが最大の特徴である。

同社では約10年前にフィリピン・カビテ工場を操業したのを契機に、基幹業務システムを海外拠点でも利用可能にするニーズが生じてきた。

もともと同社はシステム/34以来のAS/400&iSeriesユーザーである。現在は、2005年1月に導入した「i5 モデル520」で販売管理、生産管理、人事給与、購買・原価管理など、財務会計を除く全業務システムを運用する。

本社、および本社工場ほか4拠点あ

る生産工場、そのほか営業所などを含めると、国内に9拠点がある。そのすべてで端末を接続し、従来からの5250画面、いわゆるグリーンスクリーンで利用している。国内での運用では、これに何の支障もないが、海外進出に際しては、この5250画面が問題になった。「フィリピンで端末を接続し、2次言語である英語で本社と同じ販売管理システムを利用できるように導入を進めました。その時に強く感じたのは、アジア圏ではホストコンピュータより先にPC文化が定着し、WindowsのようなGUI環境に慣れきっていることでした。現地のユーザーは、グラフィカルな要素が何もない5250画面に強い違和感を抱

株式会社 **イダ**

COMPANY PROFILE

- 設立: 1956年
- 売上高: 180億円
- 本社: 東京都大田区
- 業務内容: コピー機メカユニット / オプションユニット、FAX / コピー / プリンタ用サブカード、FPC基盤 / FPC組立などの開発・製造・販売
- 資本金: 9600万円
- 従業員数: 500名 (国内)
- http://www.iidagroup.net/

海外拠点でのシステム導入に際し 基幹業務と帳票印刷のWeb化に対応

HATSとUT/400により、RPG資産をそのまま活かして基幹業務をWeb化

酒巻康次 氏

執行役員 経営企画本部
システム部兼生産本部
生産管理部 部長



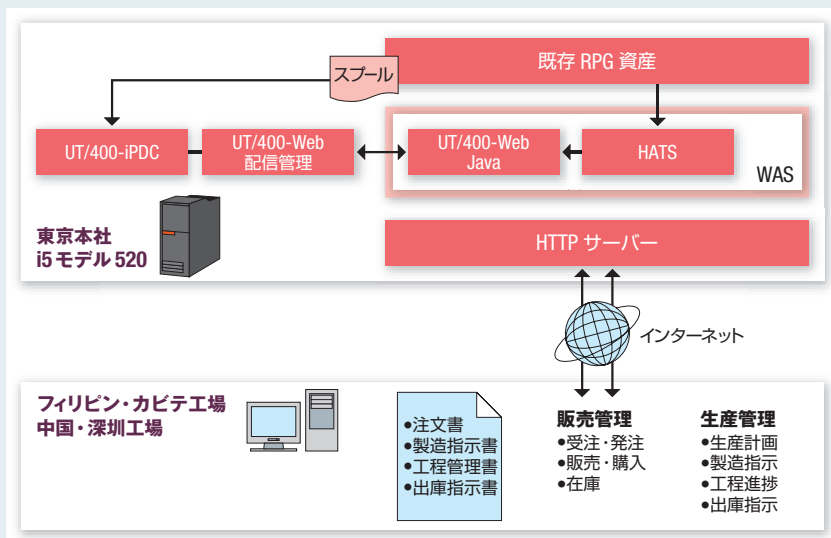
野崎修代 氏

経営企画本部システム部/IT 課長



Point

- PC文化が定着した海外拠点でWeb化の強いニーズに対応
- HATSを利用して基幹業務50画面をWeb化
- UT/400-Webを導入し、RPG資産を活かしながらWeb環境で帳票印刷
- フィリピン・中国工場で導入が完了、今後は国内外のサプライヤーへ



図表 基幹業務と帳票印刷のWeb化の仕組み

き、オペレーションをイメージできずに操作が滞ってしまう事態を目の当たりにしました」と語るのは、酒巻康次執行役員（経営企画本部システム部兼生産本部生産管理部 部長）である。

フィリピンでの導入を契機に、同社では基幹業務のGUI化／Web化を検討し始め、何度も製品選定を繰り返すが、結局は最適な手法を見つけれないまま運用を続けてきた。しかし2004年になって、「WebSphere Host Access Transformation Services (HATS)」の存在を知り、基幹業務のWeb化が一気に現実化することになる。

「既存のRPGをそのまま活用できるので、開発工数を最小限に抑えられると判断して、導入に踏み切りました」（経営企画本部システム部IT 野崎修代 課長）

RPG資産を活かして Web環境での帳票印刷に対応

Web化に際して、もう1つ検討課題になったのはプリントアウトの問題である。

海外のオフィスではPCに接続しているレーザープリンタなど一般的なオフィスプリンタが多い。こうした既存のプリ

ンタ資産を基幹業務からの帳票印刷に活かすため、画面まわりはHATS、印刷は帳票運用管理パッケージツール「UT400-Web」（アイエステクノポート）で対応することになった。「UT/400-Web」はHATSなどと同様、RPG資産をそのまま活かして、Web環境での帳票印刷に対応できる。また既存のスプールデータをインポートし、画像や文字フォント装飾、色・罫線など編集・装飾を加えてPDF化する「UT/400-iPDC」も併せて導入された。

「海外拠点では画面と同様に、Windows環境でプリントアウトされる美しい帳票に慣れており、スプールファイルをそのまま印刷したシンプルな帳票を何とかしてほしいという要望に対応するためでした」（酒巻氏）

決定は2004年12月、フィリピンでの稼働は翌2005年5月であるが、並行的にいくつかの開発業務が動いていたこともあり、HATSとUT/400による開発・作業は実質1カ月程度で終了した。ちなみに導入・開発支援は、HATSを含めてアイエステクノポートが担当している。

Web化の対象は販売管理システムで、変換画面数は約50画面、帳票は

注文書など2種類である。

HATSによるWeb化作業は、以下のような手順で進められた。

まずHATSに関する基本的な操作の習得。次にHATSアプリケーションの作成で、これは、①HATSプロジェクトを作成し、デフォルトのまま動作を確認、②HATSのデフォルト変換ルールに合わないものは一部5250画面を修正、③個々の画面をカスタマイズ（Web画面の体裁を整える程度）というステップである。

そしてログイン用Webアプリケーションを作成し（ワークステーションIDなどの割り振りのために、専用のログイン画面を作成する）、HATSアプリケーションとログイン用Webアプリケーションの連携、そして最後にHATSアプリケーションと「UT/400-Web」を連携させて終了である。

2006年3月には、同様の手法で、中国・深圳工場でもWeb化した販売管理および生産管理システムの利用がスタートしている。

同社では今後、このノウハウをベースに国内外のサプライヤーに対してWebでの受発注システムを提供していく計画だ。国内でもニーズは高いが、最近は海外サプライヤーとの取引が多くなっており、Webでの受発注を求める声が増えてきた。今回でWeb化のノウハウを得たことにより、今後はこうした社内外・国内外のニーズに広く応えていくことになりそうだ。

ms

プロジェクトの進捗

2004.12	Web化の製品決定
2005.4~	Web化の導入・開発作業
2005.5	フィリピンで利用開始
2006.3	中国で利用開始